



碧南ロータリークラブ"週報"

第2351回例会 平成19年2月21日(水)

●会長 杉浦健次 ●幹事 石川春久 ●会場監督(SAA) 棚田道和

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール
 ■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
 E-mail: info@hekinan-rc.jp

■会報委員 角谷信二・新美惣英・清澤聰之



2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ

LEAD THE WAY

率先しよう

できるひとが
できるときに
できるところで

● 齊唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子

● 本日のお客様

政治評論家 塚本 三郎 氏

知立RC 次年度ガバナー補佐

金子 利夫君

知立RC 次年度ガバナー補佐幹事

杉浦 知博君

西尾RC 岡田 雅彦君



杉浦健次会長



会長挨拶

去る2月17日(土)に第15回碧南市福祉大会が開催され、その席上で碧南RCが、社会福祉法人愛知県共同募金会会長より"多額寄付"のお礼という事で感謝状をいただきました。ご披露申し上げます。

先程、ご紹介申し上げました知立RCの金子利夫様はR I 第2760地区西三河分区の次年度ガバナー補佐をおつとめになる方でございます。1994~95年度知立RC会長、2003~04年度地区ライラ委員長を歴任されています。又、杉浦知博様は次年度ガバナー補佐幹事をおつとめになります。2002~03年度知立RC幹事をなさいました。お二人は次年度の会長・幹事との打合せの為お越しをいただきました。金子様には、後ほどご挨拶をいただきたいと存じます。

又、先般の理事会に於いて碧南RCが次々年度創立50周年を迎えるにあたり、その実行委員会を立ち上げるべく実行委員長の選任について協議を行い、出席理事・役員・満場一致により新美孝会員に実行委員長をお願いすることに決定をさせていただきました。昭和6年7月生、1971年(昭和46年)碧南RC入会、1992~93年度(平成4~5年)に会長をつとめられました。新美孝様については、私がご紹介するまでもなく"知る人ぞ知る"方でございまして、何事にも前向きな行動をなさいますので「50周年の記念事業」が立派に企画運営をして頂けるものとご期待申し上げます。会員の皆様には何卒ご理解ご協力の程お願い申し上げます。後ほど新美様にも一言ご挨拶をいただきたいと存じます。

さて、本年1月10日に入会式を行い碧南RCの会員になられました、三菱東京UFJ銀行碧南支店の上野秀城様が2月16日付で名古屋港支社へ転勤をされ退会される事になりました。"短い期間でありましたが、皆様に宜しくお伝え下さい"との事、又"後任者も宜しく"との事でございました。新転地でのご活躍をご祈念申し上げたいと存じます。

それでは、本日もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

次年度ガバナー補佐挨拶
金子 利夫 次年度ガバナー補佐



創立50周年実行委員長挨拶
新美 孝 50周年実行委員長



金子利夫 次年度ガバナー補佐

新美 孝 50周年実行委員長

幹事報告

・他クラブの例会変更等は幹事報告書の通り。



石川春久幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 79名 (内出席免除者 13名) 出席者 63名

出席対象者 58／66名	出席率 80.30%
欠席者16名(病欠者0名)	前々回修正出席率 100%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

知立RC金子利夫様 本日はお世話になります。次年度は宜しくご指導下さるようお願い申し上げます。

知立RC杉浦知博様 初めておじゃま致しました。次年度は大変お世話になります。

西尾RC岡田雅彦様 西尾ロータリーの岡田雅彦です。今日はお世話になり、有り難うございます。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

新美 孝君 碧南RC創立50周年記念実行委員長を命ぜられました。全会員の絶大なご支援ご歓声をお願い申し上げます。

加藤丈太郎君 ロータリー2月度ゴルフコンペで角谷信二君に優勝を譲って戴き、大変喜んでいます。

鈴木 敏弘君 次年度ガバナー補佐金子様、次年度ガバナー補佐杉浦様よくいらっしゃいました。今後ご指導頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

黒田 昌司君 碧南市少年少女発明クラブ発足式無事終了しました。200名を超える大勢の小学生に参加頂きました。

犬塚 敦統君 塚本先生をお迎えできて感激です。宜しくお願いします。

長田 豊治君 過日の市議会において石川春久さんの後任として公平委員への就任が決定致しました。宜しくお願いします。

新美 真司君 長男が志望大学に合格する事が出来ました。

角谷 信二君 2月度ゴルフ大会に特別賞を頂きました。

上野 秀城君 2/16付けで名古屋港へ転勤となりました。1月に入会させて頂きましたが、短い間でしたが、大変有り難うございました。後任は市川と申します。又、ご入会させて頂けたらと思います。宜しくお願い致します。

卓話

「日本人の心」政治評論家 塚本 三郎氏

敗戦後、突如として「南京大虐殺」という言いがかりが持ち出された。



何と、日支事変で日本軍は30万人のシナ人を殺したというのだ。

この"大虐殺"が最初に言われたのは、言うまでもなく東京裁判の法廷であった。東京裁判で主張された「南京大虐殺の真相」なるものは以下のとおりである。

①南京落城直後の数日で、非戦闘員の中国人が少なくとも12,000人殺害された。

②占領後、1ヶ月の間に約2万の強姦事件が起こった。

③同じく6週間にわたって略奪・放火が続けられ、市内の3分の1が破壊された。

④降伏した中国兵捕虜3万人以上が殺された。

⑤占領後6週間で殺された一般人・捕虜の総数は20万から30万人に上る。

かりに南京大虐殺が行われていたとしたら、なぜ日本人は誰も知らなかったのか。

この嘘は、日本軍の南京入場に際して、100人以上の記者やカメラマンが同行していることでも明らかで、この記者の中には、外国人ジャーナリスト5名も含まれている。また、多くの日本人ジャーナリストや作家が、陥落直後の南京を訪れて見聞記を書いている。大宅壮一、西条八十、草野心平、杉山平助、木村毅、石川達三、林英美子といった人々がそれだが、報道管制を敷くぐらいであれば、最初から彼らを入れなかつたはずである。

また、戦後になって、日本の大新聞で「南京大虐殺の証拠写真」なるものが発表されたことがある。しかし、これらの写真はすべてインチキ、あるいは虐殺と何ら関係ないことが分かり、今では使われなくなった。それは累々と横たわる死体や、中国兵を日本兵が殺しているところを撮ったものであったが、よくよく調べてみたところ、中国兵が馬賊を殺したときの写真であったり、あるいは戦後に作られた、映画のトリック撮影であったのが判明したのである。南京の面積は東京の世田谷よりも小さく、鎌倉市と同じくらいである。この狭い地区の中で、10万人を越えるシナ人が虐殺されていれば、一人ぐらい「累々と積み上げられた死体を見た」とか、「虐殺の現場を見た」というジャーナリストや文学者がいてもいいはずである。いや、少なくとも死臭ぐらいは嗅いでいるはずである。ところが、彼らは誰もそんなことを報告していないのである。「かりに南京大虐殺があったとしたら、なぜ当時の国際社会で問題にならなかつたのか」ということである。しかも当時の国際社会は、日本軍のシナでの行動に批判的であった。すでに日本は国際連盟からも脱退しているのだ。

そのような時期に南京で民間人を虐殺していれば、これは非難の的になつたはずである。何しろ、被害者であるはずの中華民国政府の代表さえ、国際連盟の議場で「南京虐殺」のことを取り上げなかつた。日本軍による南京空爆の際、民家に落ちた爆弾があると言って国際連盟に訴えた中国政府が、南京大虐殺なるものについて抗議していないのはなぜか。また、中共軍にしても、負けた南京の中国軍を非難したことはあっても、日本軍を非難したことはない。さらに米英仏などの国から、公式に日本政府に抗議が寄せられていない。南京において陥落間近と悟った中国兵がやつたのは、軍服を捨て、平服に着替えて"便衣隊"つまりゲリラになることであった。彼らの多くは南京市内の安全区に逃げ込んで、隙あらば日本兵を襲おうとしたのだ。南京に入城した日本軍も、そのことにすぐ気が付いた。南京の道路のあちこちに、脱ぎ捨てられた軍服が落ちている。また、非戦闘員ばかりであるはずの安全区に、多数の武器が隠されているのが発見された。直ちに、"便衣隊狩り"が行なわれることになったのは言うまでもない。南京の日本軍も、当然バーグ陸戦規定を知っているから便衣隊には容赦しなかつた。実際、これによって多数の便衣隊を狩り出し、処刑したのである。

ところが、これが東京裁判では、「一般人に対する暴行」という話になったのである。しかも、そのことを責めるなら、まず便衣隊をさせた蒋介石の国民政府の責任を追及するのが筋というものではないか。蒋介石の国民政府が便衣隊を許したときから、無辜の市民が間違つて殺されてしまうのは、目に見えていたことである。

ゲリラと一般市民をきれいに見分ける方法は、どこにもない。日本軍には「なるべく間違って殺さないようにしよう」という道しか残されていなかった。だから、絶対に蒋介石はゲリラをさせてはいけなかつたのである。

さらに言えば、そもそも蒋介石は南京を死守すべきではなかつた。松井将軍が降伏勧告を出し、開城を求めたときに、これに応じるべきであった。そうすれば、便衣隊などやらずに済んだはずである。首都・南京を舞台に攻防戦をやることにした蒋介石の判断は"愚策"と言われてもしかたがないことである。というのも、首都攻防戦は、一般市民の生命や財産をも巻き添えにするからである。たとえ防衛しきれたところで、市街は瓦礫の山になり、都市機能は麻痺してしまうし、市民の犠牲も多い。流れ弾に当たったり、飢えて死んでしまう人がたくさん出る。たとえば、第二次世界大戦でドイツ軍がパリに迫ったとき、当時のフランスの指導者はさっさとパリを開放してしまつた。そして連合軍が力を取り戻してパリに迫ったとき、ドイツ軍の司令官は、パリをオープン・シティにして退却した。このおかげで、大戦中二度も占領されたのに、パリの大部分は無傷であった。ヒトラーはパリに火をかけるように命じたが、軍司令官は従わなかつたのである。

また明治維新のときも、京から攻め込んできた官軍に対して、勝海舟は、江戸城を明け渡したではないか。これも今の言葉で言えば、江戸をオープン・シティにオープン・シティにしたのである。市民のことを考える指導者であれば、首都攻防などという悲惨な道は選ばない。ところが、蒋介石は南京をオープン・シティにしなかつた。それはすなわち、「市民が何人死んでも、町がどれだけ破壊されようと構わない」ということに他ならない。南京大虐殺は幻だが、蒋介石が首都防衛戦をやることにしたのは紛れもない事実である。しかも、彼は戦闘が始まる前に、さっさと脱出してしまつた。彼は、南京の町と市民を文字どおり「捨て石」にしたのである。これもまた正真正銘の事実である。

さらに南京死守を蒋介石に誓つた唐生智将軍も、南京陥落前後、部下を置去りにして、こっそりと逃げ出した。そのため、南京に残つたシナ兵は秩序ある降伏ができなくなつた。ところが、戦後50年余年間、日本のマスコミ人や歴史家たちは、蒋介石たちの責任には一言も触れず、南京大虐殺などという、ありもしないことを証明しようと躍起になつて來た。それは日本人を侮辱するばかりか、歴史をも歪める背徳行為という以外にない。結局のところ、東京裁判で突如として「南京大虐殺」の話しが出て來たのは、日本も残虐行為を行つたという事実を、連合国が欲していたからとしか思えない。東京裁判はまったく非文明的な裁判であった。そもそも国際法上、まったく根拠のない裁判であり、しかも勝者が検事と裁判官を兼ねるという裁判であった。これは、裁判の形式を借りた"復習の儀式"にすぎない。

このようなイカサマ裁判を、もっともらしく見せるために必要だったのが、「南京大虐殺」であったのではないか。誰の目から見ても、人道に外れたことを日本軍がやつてゐるとなれば、東京裁判で一方的に日本を裁くことも、正当化されると考えたのであつる。しかも、もう一方の敗者であるドイツは、アウシュビッツなどでユダヤ人虐殺をやつていた。だから、ドイツと"バランス"を探るためにも、「何か大虐殺が必要だ」と思ったのではあるまいか。そこで、ありもしない大虐殺が騒ぎ立てられたというのが真相であろう。実際、連合軍の判断は見事に的中して、日本人ですら「南京で大虐殺をしたのだから裁かれてもしかたがない」と思うことになつた。そして、その誤算は今でも続いている。

しかし、本当に残虐であったのは、日本と連合軍のどちらであつただろうか。アメリカは原爆を広島と長崎に落とした。前者はウラニウム爆弾、後者はプルトニウム爆弾であり、二度も落としたのは実験のためであつたとも言つてゐる。

広島では11万人以上の人人が死に、長崎では7万人以上の人人が死んだ。これらの人々のほとんどは、民間人である。もちろんアメリカは、原爆を落とせば、主として一般人が被害に遭うことを

分かってやったのである。日本が降伏寸前であることも知っていた。遠からず日本が白旗を揚げるのを知っているながら、あえて原爆を落としたのは、いったい、何のためであろう。これはまさに虐殺の為の虐殺に他ならないではないか。

以上は、『渡部昇一の昭和史』ワック株式会社刊の一部を抜粋した。

「歴史に対する認識は、後世の人が決めることであろう」。これは中国の歴史認識の誤った強要に対して、大平正芳元総理の名言であった。

今、日本の国はアジアにおける名士として頑張ってきました。しかしながら、あの東京裁判で我々の先輩達が間違ったことをした。二度と何を言われても頭を下げよう、負けるなら気風のよい負け方をしようとして、一切言い訳せず、1億総懺悔を決意した訳です。その結果が、現在に表れていると思われます。大きな変化をしながら、日本の将来の新しい第一歩を期待してお話しを終ります。

次回例会案内 平成19年3月7日（水）

卓話「命は一つ」

R I 第2760地区社会奉仕委員会 委員長 伊藤秀雄氏